

平成30年度第1回花巻市子ども・子育て会議 会議録

日 時 平成30年7月4日（水）午前10時から午前11時25分まで
場 所 花巻市生涯学園都市会館 3階 第2・第3中ホール
出席委員 青木明希委員、阿部祐太委員、本宮信也委員、打田修子委員、菅野志保委員、
照井義彦委員、佐々木美由紀委員、藤戸妙子委員、佐藤勤委員、牛崎恵理子
委員、新田光子委員、中村良則委員、佐藤良介委員（13名）
欠席委員 岩館光委員、晴山めぐみ委員、瀬川和子委員、内村悦子委員、佐藤正昭委員、
鎌田文聰委員
市出席者 佐藤教育長、布臺教育部長、今井こども課長、松原課長補佐、菊池保育管理
係長、藤原就学養育係長、藤村子育て支援係長、菊地主事
関係各課 地域福祉課吉田係長、障がい福祉課大竹係長、健康づくり課藤田課長補佐、
蟹澤係長、市民生活相談センター伊藤所長、学校教育課中村課長、学務管理
課熊谷課長、
辞令交付 教育長より青木明希委員、阿部祐太委員、菅野志保委員、藤戸妙子委員へ辞
令書手交

1 開 会 [松原課長補佐]

2 あいさつ [佐藤教育長]

本日はご多用のところ、朝早くから、また、暑い中ご出席いただき誠にありがとうございます。委員の皆様には日頃より保育・教育、児童福祉・社会福祉と、広範な分野で子どもたちの望ましい発達や、環境整備にお力を頂いていることに感謝申し上げます。そして新たに委員をご承引頂きました皆様にはどうぞ宜しくお願いいたします。

さて、この会議は国の子ども・子育て新制度施行に伴いまして設置が義務付けられたものでございます。国の新制度のスタートに呼応しまして花巻市でも「イーハトーブ花巻子育て応援プラン」を策定して、平成27年度から平成32年度までを計画期間としておりますが、毎年事業内容を評価し改善を図ることとしております。事業内容は107事業でスタートしておりますが、その後さまざまなニーズに対応して施策が追加されたり内容も一部変化している状況でございます。また、今国においても就学前の教育の無償化について骨太の方針として検討するなど、今後こうした動きにも対応していくことが重要と考えております。本日は平成29年度イーハトーブ花巻子育て応援プランの実施状況、それから市内保育施設の整備状況、公立保育所再編事業について議題に協議を頂くこととしておりますけれども、本日は担当課の職員も出席しておりますので、ご忌憚のないご意見・質問を賜り、また、会議全体としての共通理解を深めながら花巻の子ども・子育ての支援の充実に繋げて参りたいと思っておりますので宜しくお願いいたします。

3 委員紹介 [今井こども課長より新任委員を紹介]

4 議 事

(1) イーハトーブ花巻子育て応援プランの実施状況等について

[藤村係長より資料1について説明]

〔質疑〕

(佐藤委員)

実施状況についての質問ではありませんが、確認の意味でお聞かせいただきたいと思います。No.5のファミリーサポートセンターについてですが、預かる方はどういった資格が必要なのかと、どういったお子さんが利用されているかについてお聞きしたいという点と、もう一点、No.30の放課後児童健全育成事業についてですが、具体的などころではありませんが、インフルエンザ等に感染しているお子さんは学童も利用しないと思いますが、兄弟がインフルエンザ等になった時に同じ家族だからということで学童の利用を控えて欲しいというようなことはあるのでしょうか。

(藤村係長)

No.5のファミリーサポートセンター事業でございますけれども、お子さんを預けたいという方につきましては事前にご相談のうえ登録をしていただく必要があります。さらに、預ける側と預かる側それぞれ会員がいますので、預ける側と預かる側で事前に顔合わせをして頂き、両者合意の上で利用して頂くものです。登録にあたって特段制限はありませんが、地域によっては預かり会員の数等の関係で希望通りにならない場合もあろうかと思えます。あと、資格等については特に必要とするものではありません。No.30の学童クラブについてですが、ご質問の内容が、兄弟がインフルエンザに罹った時に学童の受け入れがどうなるかというご質問と受け取りましたけれども、こちらについては基本的には各学童で判断して頂くこととなっております。感染が激しい時期となると各学童でも慎重になりますが、発症していなくても受け入れないというものではございません。ただし、学校内で感染が拡大しているような場合については、学校側の措置に準じて学童を閉所する場合もあり、そういった部分については各学童で感染症の対応マニュアルに基づいて対応している状況です。

(打田委員)

No.5のファミリーサポートセンター事業に関してですが、私の方でもお尋ねしたいというか、そうであったらいいなというお話をさせて頂きたいと思います。

ファミリーサポートセンターで学校から帰ってきた後、または園だったり、夕方に預かって食事を提供するという利用をしている方々もいらっしゃるんですけど、預かる側の方々もきちっとした保育士の資格を持っていたりとか、研修をしていて、それで預かりますよという方々もいると伺ったのですが、その方々を利用する保護者の方々は低料金で利用できるということでもいいのかもしれないんですけども、結局、その預かり会員が請求するにはワンコイン程度で凄く少なく、折角研修も受けて、やっぱり命を預かるのと同じなので、何かあれば車で迎えにいたりとかしているけど、それも利用料として取れないということで、それから最低賃金よりは受け取っていけないというふうに聞いていますので、市の方で預かり会員の方々に何か援助できればもっともっと安心して預けられるのかなと、折角資格もあって研修も受けられている方々に安心して預けているものだと思うので、何かできればもっと利用して頂けるのではないかなと思いました。

(今井課長)

今は1時間500円、休日は確か600円だったと思いますけれども、その金額が安いと見

るか、中には預ける側にしてみると500円は高いという方もいますので、利用料の実態につきましては担当に確認させていただきませうけれども、料金設定については難しいところもありますが、打田委員ご指摘のとおり送迎等を負担している方もございますので、より利用して預けるよう検討するためのご意見として、今後実態等を確認して参ります。

(中村会長)

ちなみに、会員は総勢でどれくらいいるのでしょうか。

(今井課長)

平成28年度の実績になりますけれども、お願い会員が694人に対しまして、預かり会員が190人、両方会員が27名ということで、預かり会員が少ないという状況です。

(阿部委員)

自分もファミリーサポートセンターを使っていますが、子どもが学童に行つて、それから習い事に行くときに迎えに来てもらっていますが、安い料金でとても助かっています。また、預かってくださる方も研修を受けていて、とても丁寧に対応してもらっています。金額については利用する方としては安い方がいいのですが、登録されている方が就労なのか、子育て支援や子どもとの交流目的など、色んな意味合いがあると思いますので、それらを含めて設定して頂けたらと思います。

(牛崎委員)

15ページのNo.104発達相談・支援事業ですが、以前も一度お話ししたことがあるのですが、発達の遅れなどが気になるお子さんの相談支援ファイルですが、北上市にも同じようなものがあるのですが、花巻では自立支援協議会で取り組んでいたみらい手帳というのがあるのですが、北上と花巻の普及率を比べてみますと、支援学校でアンケートを取ってもらった結果ですが、小学部にかんしましては花巻の在籍数が20人に対してファイルの保持者が5人、対して北上市の在籍者が18名に対してファイルの保持者が12人も持っているということです、それから中学部になると花巻の在籍者が22人に対して保持者は0人、北上は24人の在籍者に対して持っている方が14人ということで普及率に差があるようです。北上市の場合はHPに貼り付けて自由にダウンロードできるようにしているようですが、花巻市の場合は自立支援協議会事態が委託ということもあり、弱い部分があるようです。発達に問題のある子どもたちにとって必要な支援ファイルですので、学校への引継ぎにも有効ですので、教育委員会の方で取り組んでいただきたいと思つております。花巻の方が取り組みは早かったのですが、普及に時間がかかったのはそういった原因があるのかと思うので、お互いに情報交換をしながら取り組んでいただきたいと思つています。

(障がい福祉課 大竹係長)

ただ今の牛崎委員からのお話しですが、自立支援協議会からもご提案を受けまして、みらい手帳自体の作成時期が大分前のものでしたので、今後見直しが必要かなというところで、障がいの担当課だけではなくて、発達相談・支援事業に関しましては就学前から学童期にはいりまして、大人になるまでということで、各担当課が変わっていくような形になりますので、一連の流れで保護者さんが不便とならないような形で成育歴が記録できるよう、簡単にまとめられようように作成できればと思つていますので、今後、教育委員会や保健センターなど、関係機関と調整を図りながら一

連の流れでお子さんを見守るような形にできればと思います。

(中村会長)

具体的な検討は始まっているということでよろしいでしょうか。

(障がい福祉課 大竹係長)

これから自立支援協議会の中で検討してからということになります。

(打田委員)

お願いなんですけれども、No.68でも保幼小連携事業が保幼一体研修という形になっていますけれども、何度かお願いしたことがあるんですけども、国の施策ではこども園に移行しているところが沢山ありますので、それを花巻市でもこども園の「こ」なり付けていただくか、幼保連携型だと学校に位置付けているので、そこと一緒なのではないかということの思ったりしてるんですけど、「こども園です」と言う「無認可なの？」という感じに取られるんですよ、そうではないものなので、やっぱりきちとしたものであるということを市民の方々にも教えていただければと思います。

(今井課長)

以前にもご意見をいただいているところであり、大変申し訳ございません。事業名については大変大事な部分でございますので、持ち帰って検討させていただきたいと思います。申し訳ございませんでした。

(中村会長)

私の方から簡単に質問させていただきたいのですが、No.42の保育料の負担を軽減しますというところについて、軽減率の実績が36.8%でH31の目標値が34.4%となっていますがそうゆうものなのではないでしょうか。考え方を教えてください。

(藤村係長)

No.42の保育料負担軽減事業の31年度の目標値が34.4%となっており、それに対して29年度実績と30年度目標値がそれを上回っている状況ですが、最終的に目標値まで下げていくように受け取られるかもしれませんが、こちらの目標値の考え方は34.4%を常に超えて実施するという意味であり、この数値を目指すというものではございません。国の基準に対して市としては常にそれを上回った負担軽減を行っていくという考え方でございます。

(打田委員)

先ほどの質問に関連してですが、資料では31年度となっていますが、今保育料の無償化ということが、来年度10月からはそうなるであろうというものなんですけれども、その時にはこれはストップするのでしょうか。そのまま続けられる事業なんではないでしょうか。

(今井課長)

確かに2019年10月から保育料無償化ということで3歳以上が無償化、あと低年齢児につきましては非課税世帯が無償化の対象と考えられていますが、保育料が発生しないということではないでしょうし、これについては現段階の数値になりますので、今後の国の動向によりましては当然変わる可能性がございます。

(2) 市内保育施設等の整備状況について

[藤村係長より資料2について説明]

[質疑]

(中村会長)

待機児童が今時点で51名ということで、そのうち0歳児と1歳児が大半を占めていますが、この子どもたちは当面は待機ということになるということですね。

(藤村係長)

現時点での待機児童51名ということでございますけれども、月を追うごとに待機児童は増える傾向でございます。今後の施設整備の状況にもよりますけれども、少なくとも施設が整備されるまでは解消は難しいものと考えております。

(中村会長)

小規模保育施設は市でも設置可能ですよね。実際に市内に整備されましたね。

(今井課長)

こちらの資料にはございませんが、今年度4月に民間で1か所、5月に法人で1か所、そして公立として4月に1か所の小規模保育施設を開設しておりますけれども、やはり整備が追い付かないことから、実際待機されている方の中には育児休暇を延長されたり家族に見てもらおうなどの対応していただいている状況です。

(中村会長)

施設が新築・増改築されれば全体で160名定員が増えるということで、来年は待機児童が解消される可能性が高いということで理解してよろしいですか。

(佐藤教育長)

数値上は160名ということで、大分減少するだろうと、ただ待機児童が解消できないもう一つの理由とすると、花巻市だけではありませんが、やはり保育士の不足しており、保育士の確保についても現在進めております。それから先ほどお話がありましたとおり、来年無償化となった場合には多分もっと増えるのだろうと思います。そういったことも踏まえながら、まず5つの施設整備で今年4億7千万掛かっていますが、来年度さらにどういったふうに持っていくかということについて、ここ暫く検討が必要だと感じております。

(3) 公立保育所再編事業について

[今井課長より資料3について説明]

[質疑]

(阿部委員)

検証のところで、当初の策定するにあたって複数の目的があげられているので、引継ぎがうまくいったかということと一緒に、この視点からどうだったのかという検証も行う必要があるのではないかと思うので、こちらの視点から見た場合どうだったかもあげていただければいいと感じました。

(今井課長)

再編につきましては、手法として民営化という部分と公立園の統合というところが

あります。先ほどの待機児童を例にしますと、花巻地域は待機児童が多いのですが、旧3町の一部では入所定員を割っているところがあり、そういうところにつきましては統合を検討するなど、そういったところを含めて一つの状況ということでの書き方をさせていただいたところです。阿部委員さんのご指摘のとおり、検証の視点について付け加えていきたいと思えます。

(照井委員)

先ほどもお話し出ておりましたNo.68の幼保一体研修についてですが、大分前から市では就学前教育という格好で、会議の中に幼稚園・保育園に小学校も入りながらやっていますし、一体化の中で研修ということもあるわけですが、幼稚園関係から申し上げますと岩手県の幼稚園では昔は幼稚園連合会でした、現在、認定こども園が半数に達してまして、昨年、幼稚園連合会から幼稚園・認定こども園連合会というふうに変更したので、全国的にもそういう形になっています。うちのほうでも29年度から幼稚園と認定こども園と保育園の3つをやらせていただいていますけれども、そういった意味で昭和38年から保育園の中でも幼稚園教育該当のところでは保育園でも幼稚園教育をやるようにということだったのですが、なかなか行われてこなかったのですが、教育基本法が変わった関係から学校は幼稚園からというふうになってますけれども、就学前全体として花巻の子どもさんは小学校に行けば一緒になるわけですから、そういった視点でこの名称を考えていただければいいと感じています。

(本宮委員)

お願いなのですが、毎回言っていますけれども、資料2のように待機児童が増えているということは、将来この子どもたちが学童保育を利用すると思われそうですが、保育園は増設したりしているのですが、学童クラブの方もいわゆる小1の壁、南城学童クラブでは小4の壁で4年生以上が入れないことがあり、学童クラブはこれからニーズが増えていくと思いますので、そこらへんも考えていただきたい。市の方で各学童クラブへ6年生までの利用についてニーズ調査を行っているとお聞きしていますが、6年生まで入れられる環境が整っていない学童クラブもあります。宮野目学童クラブでは入れない子どもが学区外の花南わんぱく学童クラブへ通っている状況もあるようなので、保育所の整備にお金が掛かるとは思いますが、長い目で見て学童保育の方にも力を入れていただければと思います。

あと、私は北工業団地で働いているのですが、近くに東芝メモリの工場が建設中でおそらく3千人から5千人規模の従業員が働くと思います。四日市工場に行っていたことがあるのですが、やはり四日市市が変わったというくらいの事なので、多分花巻市や北上市にも大きな影響を与えたいと思います。そういうふうになった時に、花巻市と北上市で子育てするならどっちがいいかとなった場合に、花巻市の方がいいと思われるような花巻市にしてもらいたいのので、保育園にしても学童にしても一体となった考え方をさせていただければと思います。

(中村会長)

東芝メモリが入ってくると北上市だけでは受け入れられないと思います。

(本宮委員)

南城地区だと大体10分位なので、南城・矢沢地区の人口は増えると思います。

(中村会長)

全員がお子さんいるわけではないでしょうが、相当数のお子さんが増えるということになりそうですね。

(本宮委員)

人事の方に聞くと既に100~200戸の面接をしているということなので、これから結婚して子どもを産む世代も従業員として入ると思うので、その辺を加味しながら花巻市と北上市が一体で街づくりをしていかなければならないかと思います。

(佐々木委員)

こども課にはいつもお世話になっているのですが、一つお願いがありました。花巻市内学童クラブ連絡協議会という組織がありますけれども、事務局が毎年変わるといことで、事務局になった学童クラブでは事務局の仕事と保育の仕事を同時にしなければならなくなり、大変忙しい一年となります。今、協議会ではその事務局の仕事を分散しようという動きがありまして、連絡協議会そのものを見直す「あり方検討会」を立ち上げようという計画があります。そこで、モデルとなるような他の組織について、こちらでは情報収集が難しいので、こども課から積極的な助言をお願いしたいと思います。

(藤村係長)

県内の学童クラブ、特にも当市でいう連絡協議会さんのような組織化という部分ですが、全てを把握してはおりませんが、近いところであれば北上市さんが複数の学童クラブを纏めた事務局をお持ちになられているという状況はお聞きしておりますし、県北になりますけれども、市町村名を思い出せないのですが、法人さんが事務局をされているところもございます。沿岸の方ですと、シルバー人材センターさんが事務局をやられている所もあるとお聞きしています。ただ、どの組織も地域の実情に合わせた組織づくりがされていると感じました。なかなか単体の運営協議会さんだけでは難しい場合に他の団体にお力を借りているようです。そういった部分で当市と似たような状況の学童の運営方法等について聞いてみたいと思いますので、状況が分かった段階で情報提供させていただきます。

(打田委員)

今回の事に関係ないのですが、ここ何日間かすごい猛暑で、温暖化で東北の方も暑くなっていますけれども、私たちの施設や高齢者施設は冷暖房完備で仕事をさせていただいているのですが、学校関係にすると暑い最中に学習しなければなく、集中できないのにそれで評価される。学校の子どもたちは可哀想だなと思ひまして、幼児施設だと子どもが多いと冷房が効かなくなったりしたとしても、まだ外気に触れているわけではないので、水分も取れていれば一日遊んで夕方お返しする。学校の子どもたちは可哀想だなという気がします。小さい子のみならず中学校の子どもそうでしょうけど、だからと言って冷房完備といったらかなりのお金が掛かるでしょうし、国からもそうではないと思われます。東北は雪が多いので暖房に関しては寒冷地の対応というのがあるとは思ひます。ただ西日本の方では冷房という関係の手当てがあるとは思ひのですけれど、こちら温暖化になっているので、学習する子どもたちにとっては酷なんだろうと思ひます。何か対策はされているとは思ひますけれども、どうゆうふうにご過ごしているかお聞きしたいです。

(佐藤教育長)

ありがとうございます。私もそうした想いで各学校へ子どもたちの状況を確認しております。今年は暑いのでそうなのですが、エアコンに限らず洋式トイレや、最近課題となっているブロック塀など、施設設備の改修について計画的に進めています。エアコンも少しずつですけれども計画的に入れていきます。まだ全ての教室というわけにはいきませんが、少なくとも保健室やコンピュータールームには全て設置しています。ただ、全ての教室となるともう少し先の話になろうかと思えます。それからおっしゃられたとおりこちらの地域はどちらかというと寒冷地対応が中心になっていますが、その辺は学校の状況や改築等を含めて総合的に、また、計画的に行ってまいりたいと思っております。

5 その他

(松原補佐)

その他ということで、皆様から何かございませんでしょうか。

無ければこども課長から今後の会議の開催予定についてご案内申し上げます。

(今井課長)

本日は長時間に渡りご審議いただきありがとうございます。次回の会議ですが平成31年の2月頃を予定してございます。日程が決まり次第ご案内いたしますのでどうぞよろしくお願いいたします。

5 閉 会 [松原課長補佐]

以上をもちまして平成30年度第1回花巻市子ども・子育て会議の一切を終了します。